



(撮影：高中和久氏)

ちよつと おそばに...

シリーズ142

城郭考古学者
千田嘉博さん

1963年生まれ、愛知県出身。

奈良大学文学部文化財学科を卒業後、名古屋市見晴台考古資料館学芸員を務める。1990年から国立歴史民俗博物館 考古研究部 助手。95年から、文部省在外研究員としてドイツとイギリスに留学。

2000年「織豊系城郭の形成」の研究により、大阪大学で博士（文学）の学位を取得。

05年、国立歴史民俗博物館考古研究部助教授、奈良大学文学部文化財学科准教授、テュービンゲン大学およびフランクフルト大学（いずれも

ドイツ）の客員教授、奈良大学の学長などを歴任。

現在名古屋市立大学高等教育院教授、奈良大学特別教授、東海大学人文学科の客員教授。

おもな近著に「城郭考古学の冒険」（21年、幻冬舎）、「千田嘉博と春風亭昇太が攻める 最強の山城関東編」（23年、PHP研究所）、「戦国時代を変えた合戦と城」（24年、朝日新聞出版）など、意欲的に活躍を続けている。

今回はお城の魅力やお城巡りの楽しみ方などについてお伺いしました。

お城には想像を ふくらませる楽しさがある

——城郭考古学者としての原点や出発点について教えてください。

千田 私が初めてお城に興味を持ったのは中学1年生のときでした。夏休みに友だちと旅行に行き、乗り換えのために下車した姫路駅で、またまた遠くに見える姫路城が視界に飛び込んできたんです。

「こんなに美しいものがあるのか」と圧倒されました。まさにそこからですね。帰ってからお城について調べ始め、あの当時、近所の図書館で



今年2月、香川県の高松城を訪問した時の先生。他にも犬山城、熊本城、大阪城と全国を巡られています